年間授業計画　新様式例

高等学校 令和5年度（１学年用） 教科　芸術　科目 美術Ⅰ

教　科：芸術　　科　目：美術Ⅰ　　単位数：2　単位

対象学年組：第　１学年　A　組～　D　組

使用教科書：（ 高校生の美術Ⅰ（日本文教出版）　　）

教科　芸術　　の目標：

芸術科の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かにかかわる脂質・能力を次のように育成することを目指す。

【知識及び技能】芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする

【思考力、判断力、表現力等】創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・造形的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関り主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			鑑賞	評価規準	知	思	態	配当時数
			絵・彫	デ	映						
1学期	オリエンテーション 「美術とは何か」	小中学校での図画工作・美術の学習を振り返り、自分の心の中を見つめたり、気づかなかった自分の美術を見つけていく。その中で「高校生の美術Ⅰ」の学習のイメージを持ち、美術の学びの広がりについて考える。				○	美術の学習に対して前向きな姿勢で取り組もうとしている。	○	○	○	1
	「身近なものを描く」	身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練る。 身近なものの特徴や美しさなど、全体のイメージを捉えて表現する。	○			○	形や色彩、質感を意識しながら表現しようとしている。 鉛筆の特性を生かし、線の強弱を意識した表現ができる。 正しい形を捉えることができる。 作品を通して制作者の意図を感じ取ることができる。				9
	「デザインの広がりを考える」	幅広いデザインの世界の役割を理解し、デザインとは何か、デザインをするときに大切なことは何かを考える。		○		○	「飾る」「伝える」「使う」「環境」など、多岐にわたるデザインの世界を理解することができる。				2
	「メッセージを伝えるポスターを作ろう」	伝えたいメッセージや伝える場面などを基に、形や色彩、写真やイラスト、文字等による伝達効果を考える。		○	○	○	様々な表現方法による伝達効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、イラストや写真、文字の形や色、構成などの効果、伝達したいイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かし、目的に即したポスターを構想することができる。				18
2学期	「美術館に行こう」	美術館の役割や作品鑑賞のポイントについて理解し、美術館で展覧会を鑑賞してくる。感想をレポート形式でまとめる。				○	美術館の役割を理解し、展示作品を主体的に鑑賞することができる。また、それらをまとめて発表することができる。				2
	「抽象彫刻で表現する」	自然物や人工物などからイメージしたり、楽しい、悲しいなどの感情から形を考えたりしながら、主題を生成し、創造的な表現の構想を練ったり考えたりする。	○			○	造形的なよさや美しさを考えながら制作すると同時に、全体的なイメージを捉え、材料の特性やよさを生かし、意図に応じて表現方法を工夫することができる。				14
	「写真で表現する」	学校生活を表す情景を撮影し、被写体の印象や瞬間の美しさを捉える。			○		構図やシャッター速度などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに、写す角度や配置、拡大や縮小、光や影などの効果を生かした表現を考えることができる。				12
	「これからの私と美術」	生活と美術の関りに目を向け、これからの生活の中で、美術を通して学んだことをどのように生かすことができるのかを考える。				○	１年間の学びを振り返り、これからの美術とのかかわりについて主体的に考えることができる。				2
											合計 60